

2022年1月期 決算発表ご説明資料

(当社第12期 2021年2月1日～2022年1月31日)



丸善CHIホールディングス株式会社

2022年3月11日

1. 当社の体制図

丸善CHIホールディングス株式会社
(主要事業会社)

(株) 図書館流通センター

(株) 図書館総合研究所

(株) 図書館流通

(株) 岩崎書店

グローバルソリューションサービス(株)

(株) 明日香

丸善雄松堂(株)

(株) 第一鋼鉄工業所

(株) 編集工学研究所

(株) 丸善ジュンク堂書店

(株) 淳久堂書店

丸善出版(株)

丸善プラネット(株)

知の生成と流通に革新をもたらす企業集団

2. 当期・2022年1月期 業績サマリー・予想比

- 売上高は、2021年8月以降の新型コロナウイルス感染症第5波拡大によって、当期前半は堅調に推移していた店舗・ネット販売事業で客足が落ち込み、大学内売店でも影響を受けた。また、長引くコロナ禍により設備関連事業も影響を受け、特にその他事業の店舗内装業において前期に続き主要顧客の投資意欲が戻らず受注減となったことから、対業績予想比1.5%減の1,743億55百万円となった。
- 一方、利益面においては、業務効率化による販管費削減や、コロナ禍の市場において電子図書館、電子書籍等に注力したことにより、期初の業績予想に対し営業利益が13.4%増の40億84百万円、経常利益は対業績予想比11.7%増の38億53百万円となった。親会社株主に帰属する当期純利益は対業績予想比14.3%増の21億71百万円となった。

2021年2月1日～2022年1月31日

(単位：百万円)

【2022年1月期】	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
業績予想値 (2021年3月12日発表)	177,000	3,600	3,450	1,900
実績(本日発表)	174,355	4,084	3,853	2,171
対業績予想 増減	-2,645	+484	+403	+271
対業績予想 比率	98.5%	113.4%	111.7%	114.3%

2. 当期・2022年1月期 業績サマリー・前期比

- 売上高は、店舗・ネット販売事業で、前期に比べ新型コロナウイルス感染症拡大による店舗休業・営業時間短縮が限定的であったこと、また図書館サポート事業における新規受託館の増加が牽引し、前期比1.6%増の1,743億55百万円となった。
- 営業利益においても、増収の影響と業務効率化による経費削減効果により前期比5.2%増の40億84百万円、経常利益は前期比3.8%増の38億53百万円となった。親会社株主に帰属する当期純利益は前期比3.8%増の21億71百万円となった。（前期はコロナ禍による臨時休業等にかかる販管費を特別損失に計上している）
- 新型コロナウイルス感染症拡大前の前々期比（2020年1月期比）では、売上高が1.1%減、営業利益が18.2%増となっている。

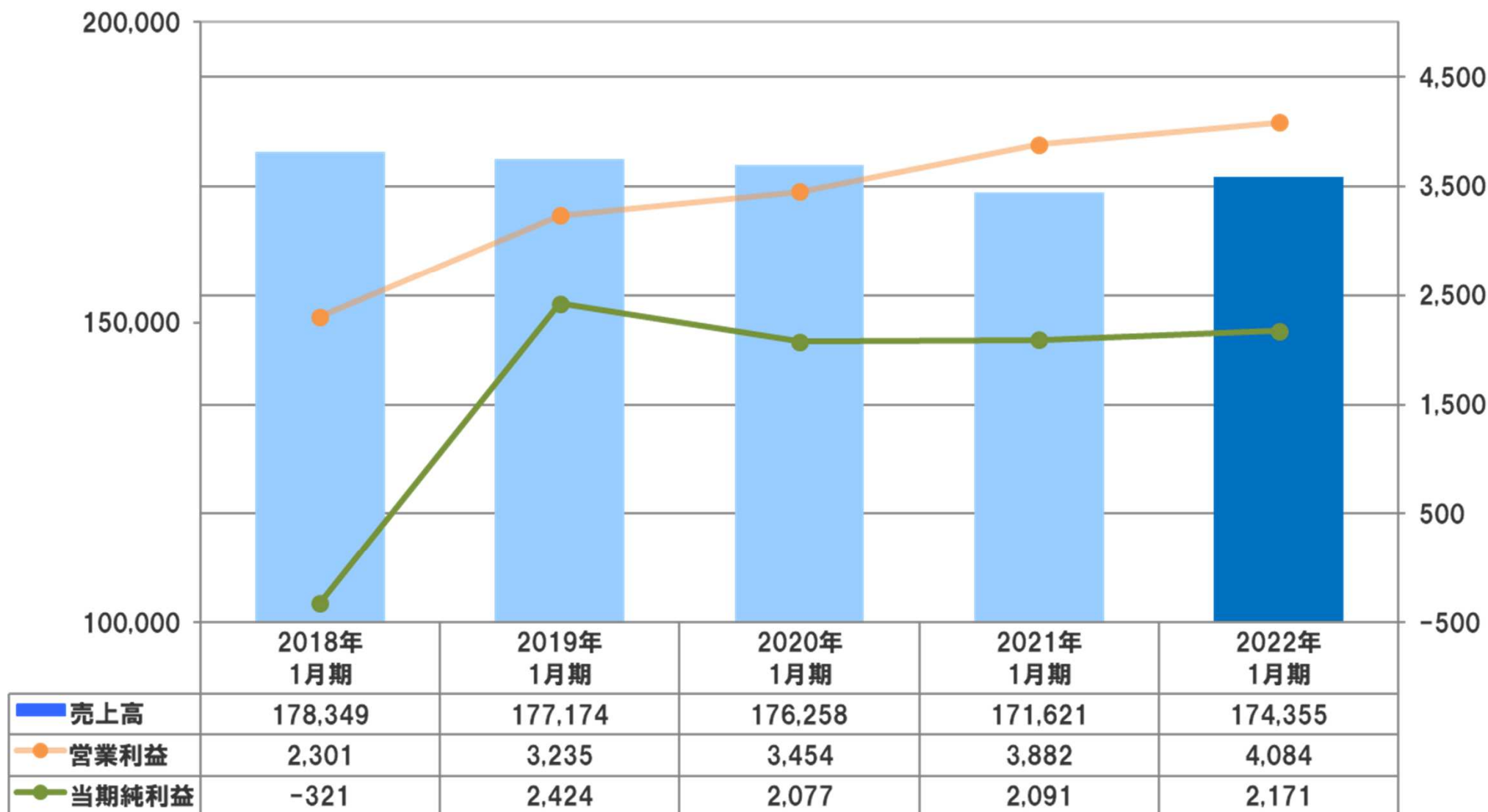
2021年2月1日～2022年1月31日 前期比

（単位：百万円）

【2022年1月期】	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
前期実績 (2021年1月期)	171,621	3,882	3,710	2,091
当期実績 (2022年1月期)	174,355	4,084	3,853	2,171
対前期 増減	+ 2,734	+ 202	+ 142	+ 80
対前期 比率	101.6%	105.2%	103.8%	103.8%
対2020年1月期 比率	98.9%	118.2%	116.8%	104.6%

2. 業績サマリー 推移表(連結)

(単位：百万円)



3. 当期・2022年1月期のセグメント損益(連結)

2021年2月1日～2022年1月31日

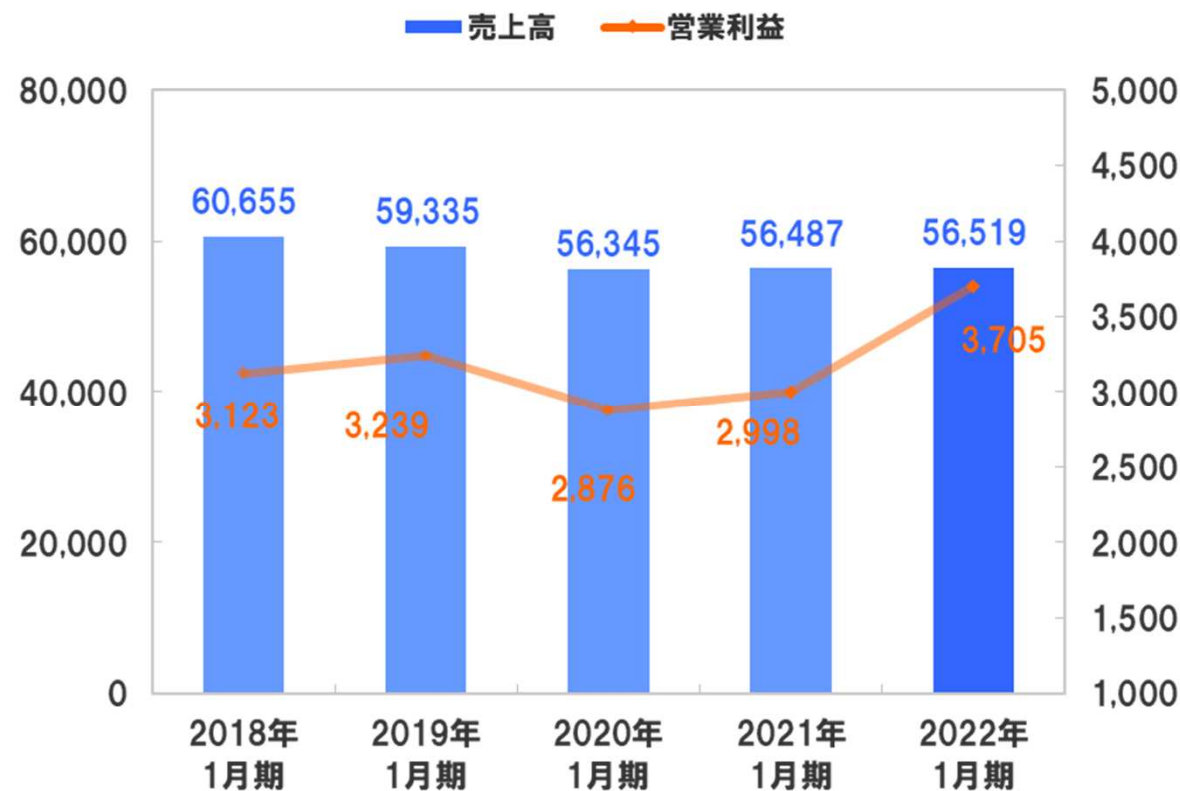
(単位：百万円)

連 結	売 上 高				営業利益			
	当期	前期	対前比	対前々比	当期	前期	対前比	対前々比
文教市場販売事業	56,519	56,487	100.1%	100.3%	3,705	2,998	123.6%	128.8%
店舗・ネット販売事業	69,824	67,004	104.2%	94.6%	307	121	252.3%	129.0%
図書館サポート事業	31,744	30,375	104.5%	113.9%	2,517	2,669	94.3%	115.0%
出版事業	4,251	4,265	99.7%	110.0%	248	285	86.9%	1377.8%
その他事業	12,015	13,487	89.1%	83.5%	321	601	53.4%	35.2%
消去又は全社	---	---	---	---	-3,014	-2,793	---	---
合 計	174,355	171,621	101.6%	98.9%	4,084	3,882	105.2%	118.2%

4. 主要事業 文教市場販売事業

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2022年 1月期	56,519	3,705
対前比	+ 31 (100.1%)	+ 707 (123.6%)

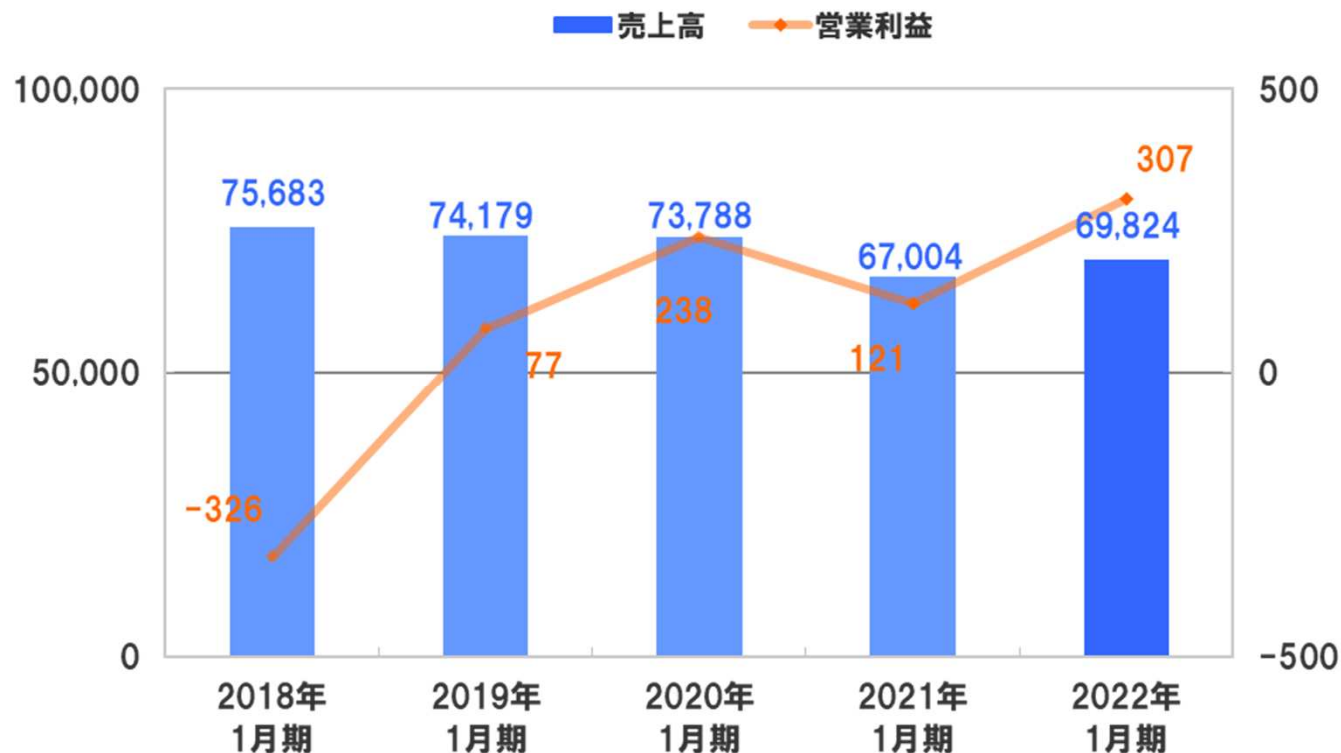


- 前期にコロナ禍の影響を受けた、大学向け教育関連設備事業や大学内売店の売上に一定の回復が見られたこと、需要が拡大した公共図書館向け電子図書館、大学向け電子書籍の売上が引き続き堅調に推移したことで、売上高は前期並みを確保した。
- 営業利益では電子系商品の伸長と、大学向け販売事業の効率化による販管費削減により、増益となった。

4. 主要事業 店舗・ネット販売事業

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2022年 1月期	69,824	307
対前比	+ 2,819 (104.2%)	+ 185 (252.3%)



- 2020年は緊急事態宣言発出等により、4月から5月にほとんどの店舗で休業や営業時間短縮を余儀なくされたが、当期はそれが限定的であった。そのため前期にコミックの大型商品があったものの増収を確保することができた。

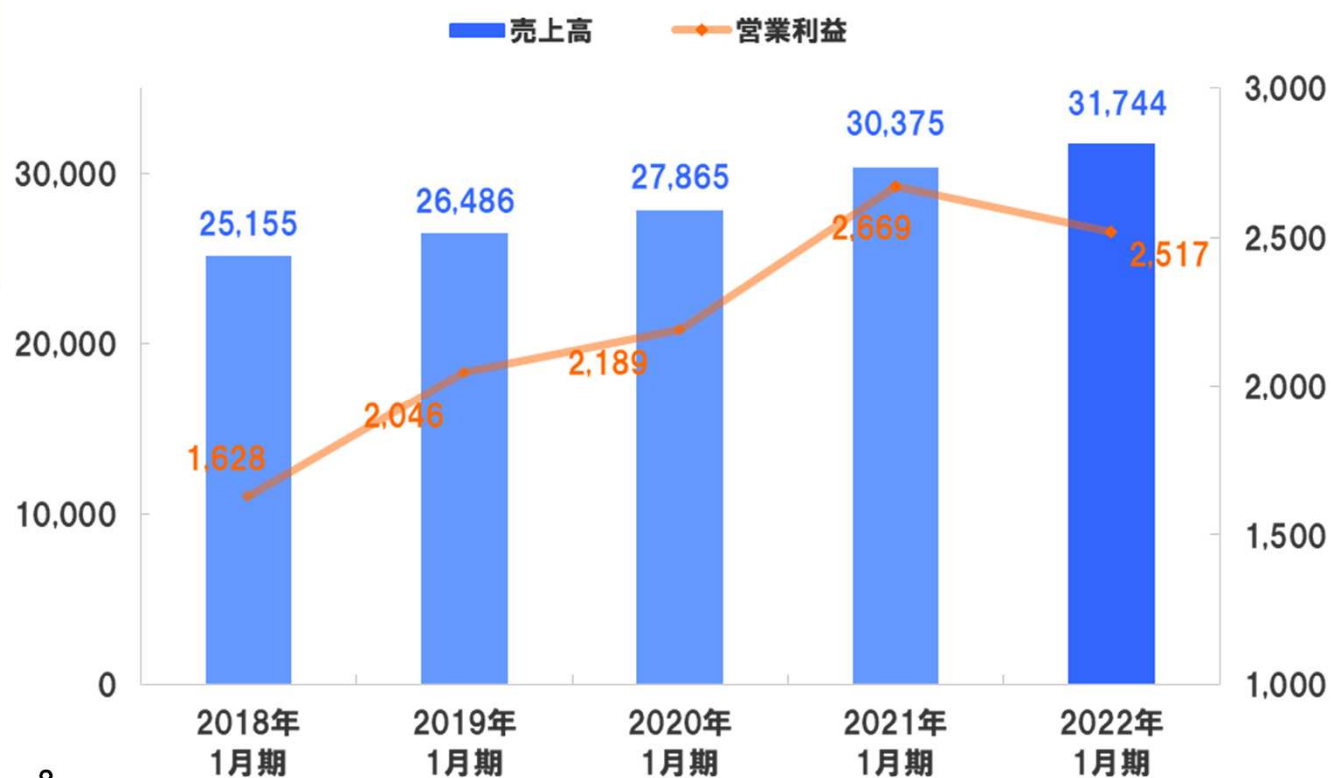
- 加えてセルフレジ導入など、IT活用による業務効率化を進めたこともあり、増益となった。(前期は一部販管費をコロナ特損に計上している。)

2022年1月末時点における店舗数は「MARUZEN」「ジュンク堂書店」ブランド以外の店舗を含め、103店舗となっている。

4. 主要事業 図書館サポート事業

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2022年 1月期	31,744	2,517
対前比	+ 1,369 (104.5%)	-152 (94.3%)

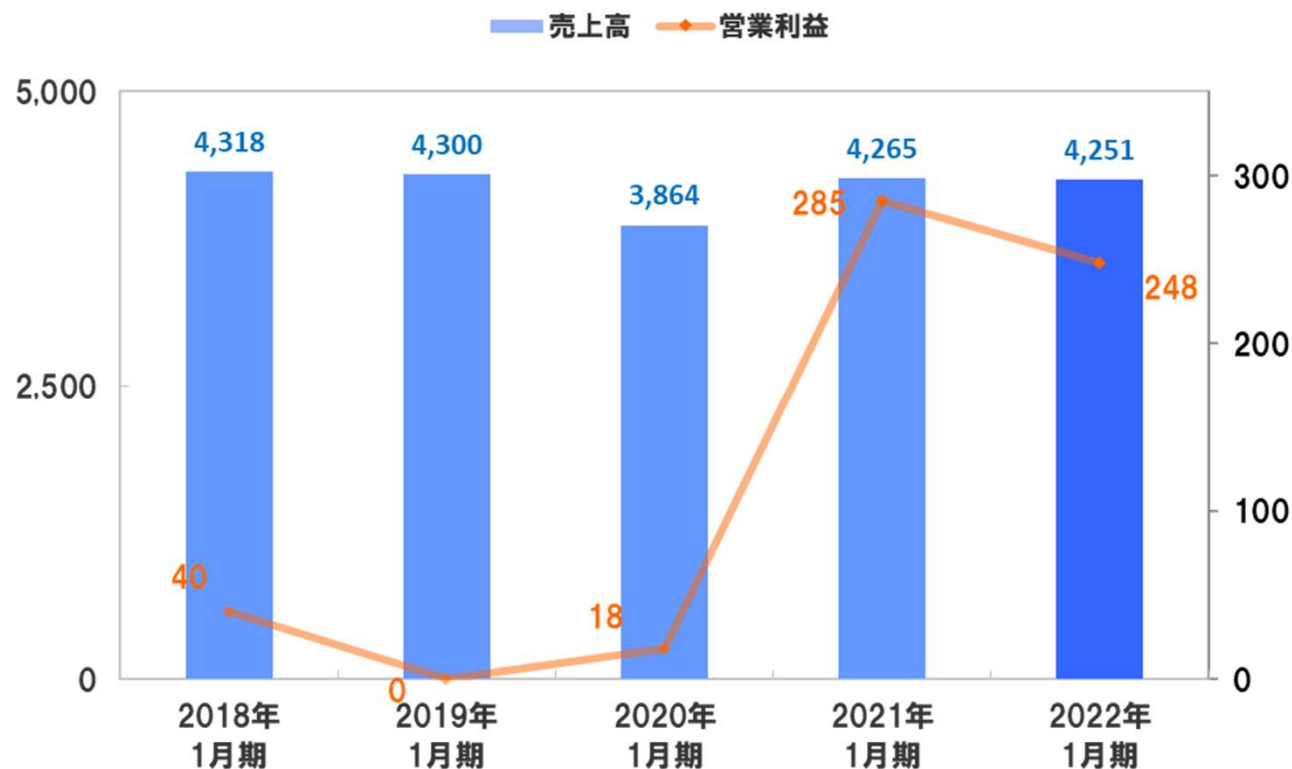


- 利用者が出来るだけ図書館を安全・安心に利用できるように、感染防止対策を徹底したことから、当事業の新型コロナウイルス感染症拡大による売上への影響は比較的少なく、図書館受託館数も前期の1,676館から21館増加し、1,697館となったことで、増収となった。
- 一方利益面はコロナ禍の影響で、2020年4月始まりの年度において、図書館内設備更新等の整備作業が年度末(2021年3月)に集中したことにより当期のコストが例年に比べ増加したため、減益となった。

4. 主要事業 出版事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
2022年 1月期	4,251	248
対前比	-14 (99.7%)	-37 (86.9%)

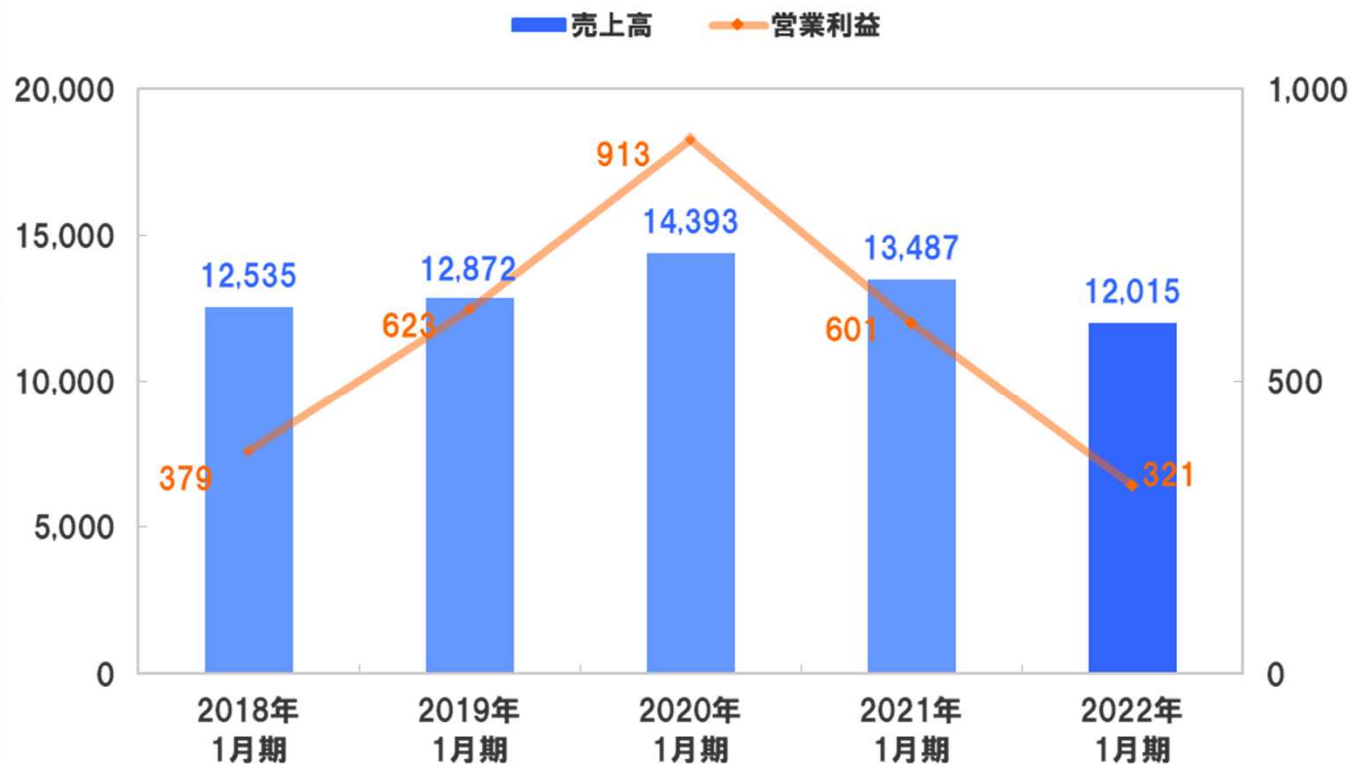


- 当期は児童書分野及び専門書分野をあわせて、244点を刊行した（前期246点）。
- 前期は、新型コロナウイルス感染症拡大下における大学のオンライン授業の影響で、教科書等の専門書売上が伸長し、また単筆り需要により、児童書売上が大きく伸びた。当期は教科書が比較的順調であったものの、新刊刊行遅延の影響もあり、減収減益となった。

4. 主要事業 その他事業

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2022年 1月期	12,015	321
対前比	-1,472 (89.1%)	-280 (53.4%)



- 総合保育サービス事業は概ね前期並みを確保し、堅調に推移した。
- 一方、コロナ禍の長期化により店舗内装業において顧客の投資意欲が戻らず、出店・改装案件ともに減少傾向が継続した。
- その結果、当セグメントも前期に引き続き減収減益となった。

5. 来期・2023年1月期(当社第13期)業績予想

- 当社グループでは、2023年1月期においても、3つの戦略テーマ「学びとともに生きる社会への取り組み」「地域創生への貢献」「新しい書店収益モデルの創造」のもとに事業を推進するとともに、コロナ禍における顧客ニーズの変化をとらえた電子商材等の拡販に注力いたします。
- 一方、新型コロナウイルス感染症は、さらなる変異種発生の可能性など、引き続きその拡大と社会・生活への影響は不透明な状況にあり、2023年1月期においても、店舗への来店客数の減少、大学等の設備投資の不透明感、書店・小売店向け設備・工事事業での出店・改装の需要低迷のおそれがあります。
- また、費用面では将来に亘るさらなる成長基盤構築のため、デジタル情報技術の急速な発展や社会の変化に対応した新規事業開発、図書館サポート事業において質の高い図書館業務運営のための人材確保の施策も積極的に実施してまいります。
- 以上の要因により、2023年1月期の通期連結業績予想は、売上高1,717億円、営業利益40億円、経常利益38億円、親会社株主に帰属する当期純利益23億円としております。

なお、2023年1月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、通期連結業績見通しはいずれも当該会計基準等を適用した後の金額となっていることから、対前期との比較の指標は記載しておりません。

【2023年1月期予想】 (単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
通期連結業績予想	171,700	4,000	3,800	2,300
【2022年1月期通期実績】	174,355	4,084	3,853	2,171

ご参考資料

当期のトピックス

2月	MJ、(株)エニキャリアと共同で、都内の店頭在庫をネット申込で配達するサービスを開始
3月	TRC、DNP、国立精神・神経医療研究センター病院と共同で医療観察法病棟電子図書館プロジェクト開始
3月	TRC、(株)富士山マガジンサービスと電子図書館事業や既存紙雑誌の図書館向け提供サービス拡大で業務提携開始
3月	MJ、DNPと「池袋ミラーワールド」にジュンク堂書店池袋本店をバーチャル書店化
4月	MJ、(株)セキュア、小学館DIME編集部と共に未来型AI無人店舗「DIME LOUNGE STORE」を新宿にオープン
6月	丸善雄松堂、米国議会図書館と電子書籍配信プラットフォーム「Maruzen eBook Library」の導入契約締結
6月	丸善雄松堂、子会社セカンドアカデミー(株)、DNP、日本ユニシス(株)と共同でオンライン授業を一元管理する大学向けサービス「オンラインアカデミー」の提供開始
7月	丸善出版、「プレゼンテーションZen」第3版刊行イベントとして日本マイクロソフト(株)と共同で、「Digital Presentation Zen“オンライン時代の伝える力”」開催
9月	丸善雄松堂および米国子会社Maruzen International Co., Ltd.、米国内の学習者向け日本語電子教材の販売サイトを開設
11月	TRC×図書館総合研究所×TRC-ADEACが、資料の関係性を3D空間上で可視化する新感覚のデジタルツール「LIB CUBE」(版)を公開
11月	TRC、(株)富士山マガジンサービスと共に電子図書館サービス「LibrariE & TRC-DL」における「TRC-DLマガジン」の実証実験開始、12月には「記事全文検索機能」実装
12月	丸善出版、LGBTQ当事者とともに製作した医療施設・教育機関向け映像教材『医療現場における性の多様性』発売
1月	丸善雄松堂とTRCで共同入札し受託した善通寺市立図書館(香川県)が開館

丸善ジュンク堂書店店舗情報

出 店

3月	丸善浦和伊勢丹店オープン（埼玉県、文具、50坪）
3月	丸善広島三越店オープン（広島県、文具、70坪）
8月	丸善プライムツリー赤池店オープン（愛知県、文具、50坪）
10月	EHONS TOKYO（エホンズトーキョー）オープン（東京都、丸の内本店内、絵本をモチーフにしたグッズ、20坪）
11月	丸善 セブンパーク天美店（大阪府、書籍・文具、260坪）

閉 店

7月	ジュンク堂書店仙台TR店閉店
7月	丸善池袋店閉店
1月	ジュンク堂書店神戸さんちか店閉店

EHONS TOKYO





本資料には、当社および当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があります。